

With コロナ時代の「こむ1会フェスティバル」の復活にむけて

令和4年2月 日
交流小委員会(企画検討会)

新型コロナウイルス感染症が全国にまん延しはじめて早いもので2年が経過しました。まん延し始めた当初は完全自粛の中、さまざまなツールによるオンライン会議が模索され、今ではそのほとんどが Zoom となっています。一方、これまで世の中で毎年企画されてきたような講演会や発表会、展示会をはじめとする会場設営型のイベントは1年目の前半は全く開催されませんでした。しかし、半年ぐらいた経過すると Zoom と YouTube に PowerPoint のビデオを活用したオンライン発表スタイルの各種イベントが各地で開催されはじめました。Zoom は事前申し込み制で限られた人の参加となりますが、そこに YouTube を導入することによって、広く外部からのアクセスが可能になり、スマートホンがあれば、外出先からでも好きな時に好きなだけ視聴し、登録をすればコメントを発することのできる参加が可能になりました。また、この手法は興味があれば気軽にイベントを覗き、誰でもどこからでも参加できることから、年齢や地域を越えて拡散し、これまでにない参加者を募り、多角的な交流につながる可能性も広がりました。その他にもさまざまなメリットがあります。そして今ではこの3つが三種の神器のように使いこなされ、当たり前のようにフェスティバルのような催しが再開され、欠かせないツールとなっています。今後感染症前の世の中に戻ったとしてもこのようなツールが消滅することはないと思われまます。言い換えるとコロナ禍がもたらした新たな情報発信スタイルです。

以上のような世の中になりつつある中、こむ1会においても時流に乗り、こむ1会フェスティバルの再開に向けて、まずはこむ1会の YouTube チャンネルの開設にむけた整備を提案します。

□ オンラインフェスティバルへの YouTube 導入にむけて

YouTube チャンネル設置の目的

- ・ コロナ禍や緊急事態宣言発令中にこむ1会フェスティバルを開催する。
- ・ 参加者年齢層や参加地域の拡大と参加者数の増大を図り、多角的に交流を広め深める。
- ・ 時流に乗ったこむ1会の広報活動にするとともにホームページからこむ1会への興味を深める。

YouTube に必要な機材等

YouTube 自体は無料でできるが、以下の機材が必要である。

- ・ パソコン(15万~30万程度のスペックを持つパソコン)
- ・ デジタルカメラ(ビデオカメラやパソコン内蔵カメラ、スマートホンでも可能)
- ・ 動画編集ソフト(無料版有)
- ・ 画像とBGMなどの動画素材(無料版有)
- ・ マイク(内臓マイクでも可能だが場所によっては必要)
- ・ 照明(必ずしも必要ではないが、きれいな画像にするためには必要)
- ・ キャプチャーカード(パソコンに映像を取り込むためのデバイス)

オンライン導入フェスティバルとは

さまざまな組み合わせがあるが、最も一般的なものを紹介する。

- ・ Zoom…すでにこむ1会に導入済み ⇒ メインステージ(ステージのセットなしも可能)からの催しと事前参加登録者が参加
- ・ YouTube…こむ1会の YouTube チャンネルを整備する ⇒ Zoom と接続して広く一般に配信し、参加者との交流を図る
- ・ 個別(登録団体)の発表内容の録画…パソコン PowerPoint のビデオ機能を活かす(PowerPoint が
ない場合はビデオやデジタルカメラ、スマートホンでの録画も可能)
⇒Zoom および YouTube を通じて広く外部に発信

YouTube チャンネル整備による利点

- ・これまでのフェスティバルで目指してきた地域市民との交流は多様な年齢層に広がり、広報次第で多角的にも拡散する。これまでにない発展が見込まれる可能性がある。また、全国への発信および交流が可能になる。
- ・パソコンかスマートホンがあれば、いつでも、どこからでも視聴が可能である。
- ・リアルタイムの参加(コメントが発信できる)に加えてイベント終了後も発信者が削除しなければ誰でも視聴し続けることができる。(視聴者数のカウント表示がある)
- ・フェスティバルに関わらず、訪問型をはじめとするさまざまな企画も全国発信が可能になる。
- ・各登録団体の活動紹介ビデオやこむ1会の平常時の紹介などによる広報活動が可能になる。
- ・世の中がどのような事態でもイベント企画が可能になる。⇒これまでの会場設営に加えたオンライン併用型と緊急事態宣言下ではオンライン限定型のイベントが企画できる。
- ・タイトルやキーワードから多角的にこむ1会で実施しているイベントや活動紹介に入り、垣間見ることでこむ1会のフィールドは全国規模になる。
- ・ホームページからYouTube チャンネルにリンクすることで、こむ1会のさまざまな活動を動画で紹介、視聴することができ、ホームページの向上と広報活動にもつながる。

こむ1会 YouTube チャンネル設置への課題

- ・広報チームにチャンネル設定の初期作業負担と定期管理をする場合はその負担がかかる。YouTuber は広報チームに限らず利用する各部隊で可能。
- ・高額ではないが機材が必要である(スマートホンでも可能だがデジタルカメラやビデオなどの撮影録画媒体、パソコン、パソコンのスペックが小さい場合は大容量のSDカード、内臓マイクでも可能だがホール以外の音響システムが使えない場所で使用するマイク、照明、編集ソフト(無料版も有)、キャプチャーカード)
- ・タイトルづくりにひと工夫が必要。タイトル次第で視聴者が激減することも広く拡散することもある。

YouTube チャンネル参考事例

